令和６年
１１月
発　行

南達交通安全新聞

南達交通
対策連絡
協議会

年末年始の交通事故防止 県民総ぐるみ運動始まる

運動期間　令和６年１２月１０日(火)から
令和７年１月７日(火)までの２９日間

【運動スローガン】　今日もまた　あなたの無事故　待つ家族

【運動の重点】
（1）夕暮れ時や夜間の交通事故防止
（2）飲酒運転の根絶
（3）高齢運転者対策の推進
（4）自転車利用時のヘルメット着用と交通ルールの遵守
（5）全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底

南達の合同出動式

日　時　令和６年１２月１０日(火)　午後４時３０分～
会　場　サンライズもとみや(本宮市本宮字矢来)
内　容　一日警察署長に平愛梨さん(ﾀﾚﾝﾄ・女優)を任命し、事件事故防止ＰＲイベントや本宮駅前周辺での街頭広報、地元ＦＭラジオに出演いただく予定です。

第３５回南達交通安全大会開催される

南達交通対策連絡協議会主催の南達交通安全大会は、令和６年１１月１６日(土)に大玉村農村環境改善センターで開催されました。

この大会は、南達一市一村の関係機関、団体などが一丸となって、総合的な交通事故防止対策を推進することを目的に開催され、交通安全功労者や地域別交通事故防止コンクール、交通安全作文コンクールの受賞者に、賞状が贈られたほか、交通安全作文コンクールの最優秀賞作文が発表されました。

大会の最後には、大会宣言が決議され、参加された皆さんは、交通事故防止に対する決意を新たにしました。

大会長挨拶を述べる　高松　義行　本宮市長

大会宣言

交通事故をなくすことは、南達一市一村住民すべての願いです。

本日、第３５回南達交通安全大会にあたり、命の尊さを深く認識するとともに、交通事故のない、安全で安心な南達地域を実現するため、決意を新たに、南達地域住民一丸となって次のことを実行し、交通事故の根絶に向けてまい進することを誓います。

1　わたしたちは、関係機関・団体と連携、協力し、「自らの安全は自ら守る、地域の安全は地域が守る」という安全意識をもって、交通事故防止運動を推進してまいります。
2　わたしたちは、「交通安全は家庭から」を合言葉の下、思いやりと譲り合いの心をもって、子どもと高齢者の交通事故防止に努めます。
3　わたしたちは、交通事故発生時の被害の防止・軽減を図るため、全ての座席で必ずシートベルトとチャイルドシートを着用します。
4　わたしたちは、夕暮れ時や夜間の交通事故防止に効果が高い夜光反射材の着用促進に取り組んでまいります。
5　わたしたちは、地域一体となって飲酒運転根絶運動に取り組み、社会から飲酒運転を追放します。
6　わたしたちは、自動車などを運転する際、横断歩道を渡ろうとする歩行者がいる時は、必ず一時停止しなければならないという交通ルールを守ります。

発行　／　南達交通対策連絡協議会

本宮市交通対策協議会　／　大玉村交通対策協議会　／　郡山北警察署本宮分庁舎
本宮地区交通安全協会　／　本宮地区安全運転管理者協会　／　安全運転管理本宮事業主会
本宮市交通安全母の会連合会　／　大玉村交通安全母の会　／　南達交通教育専門員連絡協議会
本宮市高齢者交通安全指導隊　／　大玉村高齢者交通安全指導隊

◎表彰状伝達

≪敬称略≫

東北管区警察局長・
東北交通安全協会長連名表彰

【交通安全功労者】
野内　謙一（本宮市）

【優良運転者】
渡邊　智（本宮市）

交通栄誉章（緑十字銅章）

【交通安全功労者】
舘下　憲一（大玉村）

【優良安全運転管理者】
高橋　哲也（本宮市）

【優良運転者】
中條　弥朱（大玉村）
高橋　新一（本宮市）

福島県警察本部長・
福島県交通安全協会長連名表彰

【交通安全功労者】
渡辺　幸雄（本宮市）
遠藤　隆（本宮市）
伊藤　孝夫（本宮市）

【優良運転者】
松本　章（本宮市）
白田　聡美（本宮市）
渡邉　照友（大玉村）
矢吹　一義（本宮市）
小松　洋子（本宮市）
鶴巻真由美（本宮市）

【交通安全優良学校】
大玉村立　大山小学校（大玉村）

◎地域別交通事故防止コンクール

第1位　本宮地区交通安全協会第2分会（本宮市）
第2位　本宮地区交通安全協会第4分会（本宮市）
第3位　本宮地区交通安全協会青田分会（本宮市）
第4位　本宮地区交通安全協会第3分会（本宮市）
第5位　本宮地区交通安全協会荒井分会（本宮市）
第6位　本宮地区交通安全協会第5分会（本宮市）

◎交通安全作文コンクール

応募総数451点
≪敬称略≫

【小学生低学年の部】

最優秀賞	本宮まゆみ小学校	3年	長谷川心絆
優秀賞	大山小学校	3年	佐々木蒼介
	本宮小学校	3年	小嶋　智也
佳作	糠沢小学校	2年	中村　美緒
	大山小学校	1年	船木　新太

【小学生高学年の部】

最優秀賞	玉井小学校	6年	國分穂乃花
優秀賞	糠沢小学校	4年	伊藤　夢
佳作	糠沢小学校	6年	田中　一颯
	岩根小学校	4年	鈴木　聡真
	大山小学校	5年	鈴木　小春

【中学生の部】

最優秀賞	大玉中学校	1年	野内　星花
優秀賞	白沢中学校	2年	本田　唯
佳作	大玉中学校	2年	佐々木奏輔
	本宮第一中学校	1年	菅澤　楓太
	大玉中学校	2年	渡邊　碧空

【一般の部】

最優秀賞	本宮高等学校	1年	柳田　歩奈
優秀賞	大玉村		伊藤　正子
佳作	本宮高等学校	1年	安齋　結衣
	本宮高等学校	1年	村松　逢夢

交通安全作文コンクール最優秀賞作文を発表する受賞者の皆さん

［小学生低学年の部］
本宮まゆみ小学校 3年
長谷川　心絆さん

［小学生高学年の部］
玉井小学校 6年
國分　穂乃花さん

［中学生の部］
大玉中学校 1年
野内　星花さん

［一般の部］
本宮高等学校 1年
柳田　歩奈さん

★交通安全作文コンクール最優秀賞作品【小学生低学年の部】

『事こに気をつけよう』

本宮まゆみ小学校　3年　長谷川　心絆

私は、夜ごはんを食べる時に、ニュースを見ていると事このニュースがいっぱいです。ニュースでは、じてん車や車でぶつかったりするニュースが多いです。それを見て私は、交通ルールをまもらないとそういう事こになるから交通ルールをまもらないとだめだなぁと思いました。私の家ぞくには、いちばんしたの四才の子どもがいます。まだほいくしょなので交通ルールがまだ分からないことも多いです。その時には、おしえてあげます。おうだんほどうは、あぶないのでいっしょに手をあげてわたります。もちろんちゅうしゃじょうもあぶないです。あぶないところがいっぱいあります。いつどこでなにがおきるか分からないのでちゃんと交通ルールは、まもらないと事こにあうのでちゃんとお父さんとお母さんのいうことを聞いてこうどうしたいと思います。

朝登校のときにもなにがあるか分からないです。黄色コースも車もいっぱいとおるので止まるときは止まるでわたるときは、ちゃんと手をあげてわたる。とうこうはんに一年生もいるのでいっしょに交通ルールをまもって登下校をしたいと思います。

次に車の事このニュースも多いと感じています。シートベルト、ケータイ電話、スピードいはんなどさまざまな事こがあります。私はいつも車にのるとお父さんに、「シートベルトしめた？」といつもいわれます。さいしょは、シートベルトの大切さをぜんぜんしりませんでした。お父さんがきゅうブレーキをふんだ時私の体がどんっとまえにいきました。シートベルトをしてたおかげで、私の体がまもられました。そのときあらためて、シートベルトの大切さをしりました。それから私は、車にのるときに自分からシートベルトをしめるのを心がけています。そしてお兄ちゃん、妹、おじいちゃん、おばあちゃんに、私からシートベルトをしめるのをよびかけています。

毎日おこる事このニュースを一けんでも少なくなるようにまずは、自分たちから交通ルールをまもってすごしたいと思います。歩行しゃの方、自てん車をのる人自どう車をうんてんする人、みなさんで交通ルールをまもりましょう。

★交通安全作文コンクール最優秀賞作品【小学生高学年の部】

『つながる交通安全』

玉井小学校　6年　國分　穂乃花

「車に気をつけるんだよ。」

また始まった。何回も言われなくても分かってるよ。心の中でそうつぶやいていると、外に出ていったはずのお母さんが戻ってきて、

「ねえ、聞いてるの？右、左よく見て！ぼんやりしていると車にひかれちゃうからね！本当に気をつけてよ！」

そう言って仕事に向かって行った。このやり取りが毎日くり返される。返事をしないと返事をするまで言ってくる。

「心配なんだよ。ちゃんと返事しなよ。」

とお父さんに言われるけど、私はスクールバスで学校に行くので、一人で歩くのはバス停のある集会所まで。車がたくさん通るのは岳街道だけで、横断歩道のないところを気をつければ危なくない。もう六年生だし、大丈夫なのに、なんで何回も言うのだろう。車より熊の方が怖いのに。私はずっと面倒くさいと思っていた。

そういえばじいちゃんの家に行くと、帰る時に必ず言われたことがある。

「ベルトしめて。カギも閉めて。危ないから広い道路帰るんだよ。」

なんでみんな交通安全を言うのだろう。お母さんだってもう大人なのに。次にじいちゃんの家に行った時に聞いてみると、

「ひいばあちゃんが、お母さんが学校に行く時に毎朝必ず車に気をつけるように言っていたんだよ。お母さんがけがをしないで大きくなれたのは、ひいばあちゃんがしっかり注意してくれていたからなんだよ。」

と教えてくれた。

じいちゃんの家は大玉村と本宮市の境にあって、お母さんは毎日大山小学校まで四十分位かけて歩いて通っていた。途中の新田集会所がある交差点は、車で通っていても見通しが悪く、通る時は何回も確認しなければならない。以前、朝にその交差点を車で通った時、ちょうど大山小学校の子が横断歩道を渡るところに出会った。今は、旗を持った大人の人たちが、四人位で車を止めて、安全に渡れるようにしてくれていた。お母さんが小学生の頃は、自分たちだけで安全を確認して通っていたのだろう。危ない経験をしたからこそ、一人でバス停まで歩く私を心配して注意をしてくれたのだ。そう思うと、お母さんの言うことに返事をしなかった自分がはずかしくなった。

私には四才の弟がいる。弟に

「幼稚園の駐車場に着いても、一人で行っちゃ駄目だよ。ちゃんとお父さんと手をつなぐんだよ。」

と言うと、にこにこしながら

「はーい。」

と返事をした。ひいばあちゃん、じいちゃん、お母さんとつながってきた交通安全を、今度は私が弟につないでいきたい。

★交通安全作文コンクール最優秀賞作品【中学生の部】

『ルールを守る大切さ』

大玉中学校　1年　野内　星花

私が幼い頃、家族と車で出かけていた時に、当然後ろからものすごいスピードで追突された事があったそうです。私達の車は一旦停止をしていたのですが、相手の人は運転中に気を失ってしまって、アクセルを踏んだままだったそうです。幸いにも、私達家族全員がシートベルトをしていたのと、幼かった私と兄はチャイルドシートにちゃんと乗っていた為に、大事にはいたりませんでした。事故を担当してくれた、警察の方にも

「子ども達が、きちんとチャイルドシートに乗っていて、シートベルトもしていて良かったですね。」

と、言われたそうです。

　私の父と母は、私が幼い頃から

「シートベルトをしないと、発車しないよ！」

と言って、必ずシートベルトをするまで待っています。おかげで、今では何も言われなくても車に乗ったら自然にシートベルトをするようになりました。

　時々、買い物等へ出かけた時に、幼い子供が、シートベルトせずに立ったまま車に乗っているのを見かける事があります。私はそれを見る度に、

「急ブレーキになったら、子供が前にふっ飛んでいかないかな…。事故に会ったら、命は守られるのかな…。なぜ、親はシートベルトをさせないんだろう…。」

と思います。いくら、自分達が気を付けていても事故は突然起こるものなので、命を守るためにもシートベルトやチャイルドシートはしてほしいと思います。

　交通ルールは、一つ一つが命を守る為に作られたものなのだと思います。時には、面倒だなぁと思ったり、ちょっとぐらい守らなくても良いかなぁと思ってしまったりする事もあるかもしれませんが、その一瞬の気のゆるみが大きな事故につながってしまうのだと思います。

　私はまだ、車の運転はしませんが、自転車に乗る時はヘルメットをかぶったり、左側車道を走る等、自分で守れるルールはしっかり守りたいと思っています。そして、いつか車の運転をし、子どもを乗せる時が来たら、父や母がしてくれたようにシートベルトを必ず付ける事を身に付けさせたいと思います。

「シートベルトをしていれば、助かった命」と後悔しないためにも、呼びかけや幼い頃からの教えがとても大事だと思いました。一人でも多くの人が交通ルールを守って命を大切にしてほしいと思います。

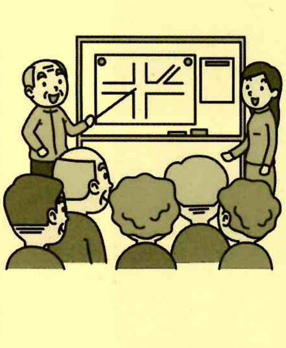
★交通安全作文コンクール最優秀賞作品【一般の部】

『高齢者事故を防ぐために』

本宮高等学校　1年　柳田　歩奈

私は、交通安全を守るための問題点として、高齢者が起こす事故が増えていることを挙げます。理由は、ほんの少しのミスが、重大な死傷者事故を引き起こしてしまうからです。

　私は、交通事故に遭ったことや現場に遭遇したことはありませんが、テレビやネット上で、高齢者の危険運転や事故のニュースを多く見るようになりました。高齢者事故のニュースを見ると、ハンドル操作ミスやアクセルとブレーキの踏み間違いが多いことを知りました。そのようなミスによる事故がこれからも増えてしまうのは、とても危険で怖いと思いました。

　高齢者事故を防ぐための改善策としては、自分の近くにいる家族がきちんと運転できているかを見たり話したりして、高齢者本人と一緒に安全に運転できる状況かを把握してもらうことが考えられます。少しでも危険を感じたら、運転を止める勇気も大切であると思います。社会全体として考えられる改善策は、交通安全教室を各地域で行うことです。これにより、高齢者自身に運転の危険さを自覚し意識させることが大切です。また、家族に高齢者がいる若い世代にも知ってもらうことが大切です。交通事故は一瞬にして人の命を奪い、当事者だけでなく、その家族をも悲しませるものなのです。

　私は、交通安全について考えることで、改めて危険や怖さを感じました。ニュースでは毎日のように交通事故のニュースが報道されています。いつか、交通事故が無くなり、一人でも悲しい思いをする人がいなくなるように、私たち一人ひとりが、交通ルールを守り生活しなければならないと考えています。